国道維持管理ワークショップ協議会

地域交流等の講演実施

国道維持管理の仕事に携わる受注業者と鹿児島国道事務所の両者で構成する「国道維持管理・コミュニケーション型ワークショップ協議会」の第2回勉強会が14日、鹿児島市の鹿児島国道事務所で開かれ、㈱加覧組（鹿児島市）の新谷清実社長の講演や施工体制についての事例発表などが行われた。

「地域密着型の会社をめざして」の演題で講演を行った新谷社長は、地域とのコミュニケーションを図るために工事着手前に工事を知らせるチラシの配布や意見箱の設置、地域清掃・小学校バザーへの参加など、全社で取り組んだ活動の様子などを紹介。また、ISO取得後〝顧客の信頼と満足を第一とし、独自の技術と創造力で豊かな故郷づくりに貢献する〟を経営理念に掲げ、全社員が共通意識を持ちながら品質方針の達成に取り組む様子を紹介した。

このあと、同事務所の岩山順一工事施工管理官が人的ネットワークによるワークショップの説明を行い、地域づくり拠点としての維持出張所の創出を提案。「地域とのかかわりにおいて顔の見える、形のある情報発信を行い理解と説明責任を果たす必要がある」などと訴えた。

また、建設サービス㈱鹿児島営業所の福永誠阿久根作業所長が「道守（みちもり）かごしま会議」活動の様子を紹介した。

事例発表などが行われた勉強会
＝鹿児島市の鹿児島国道事務所で

工法導入へ向け真剣な表情の受講者
＝鹿児島市の県建築会館で

手すり先行工法講習会

工法推進へ必要性解説

建災防県支部（川畑俊彦支部長）と県建築協会（上山一吉会長）の共催による手すり先行工法に関する講習会が14日、鹿児島市の県建築会館で開かれ、参加した会員らはその種類や設置方法、作業手順等について理解を深めた。

同工法による足場設置は、組み立て時に最上層にあたる部分に手すりを先行して設置し、かつ解体時には最上層を取り外すまで手すりを残すことで墜落災害の防止効果が期待できるもの。15年4月の同工法ガイドライン策定に伴い、各地方自治体でも普及への動きが高まる中での開催に、導入施工事業者や建築・土木事業者など約50人が詰め掛けた。

会ではまず、同協会の山下理同協会労務委員長が「本県でも導入へ向けた最終調整が進んでいる状況。この講習を通じて今後、さらなる工法の推進・普及につなげてほしい」と挨拶。

講習では、上田裕久鹿児島労働局安全衛生課地方産業安全専門官が、建設業における墜落災害の発生状況を踏まえ、その防止対策等について説明。また、仙田辰次郎建災防県支部手すり先行工法技術相談員によるガイドラインの解説では、「工法には手すり先送り方式と手すり掘え置き方式、手すり先行専用足場方式の3種類があり、いずれも確実で迅速な作業が期待できる」としたほか、設置する際には「足場の組み立て、解体、変更に係る施工計画の策定等が定められている」などと説明した。

建災防県支部・県建築協会

ゼロ災運動KYT研修会

危険感受性の訓練も

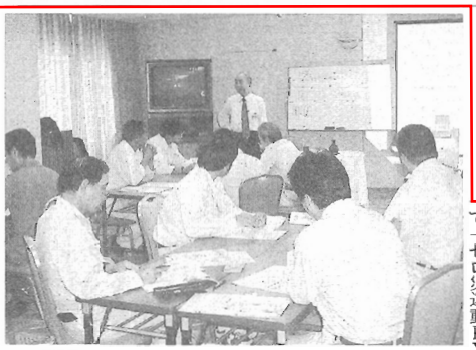
鉱災防砕石県支部

鉱業労働災害防止協会砕石県支部（中西伸一支部長）は14日、鹿児島市のKKRかごしま敬天閣で「ゼロ災運動KYT研修会」を開き、会員12人が参加、1チーム4人編成で、交通危険予知訓練やKYT基礎4ラウンド法などについて学んだ。

会では冒頭、草野純高事務局長が「今日はKYT（危険予知訓練）をしっかり勉強し、各事業所においてKYK（活動）に生かしていただきたい」と述べ、講演・実技に移った。

研修では、鉱災防の田村敏男専門役（公認・KYTインストラクター）が「安全管理とゼロ災運動」について分かりやすく説明。また、テキストをもとに指差し呼称・唱和・健康KY、KYT基礎4ラウンド法、短時間ミーティング役割演技などの実技を行った。

KYT基礎4ラウンド法は、リーダーがしっかり身に付けることが効果ある短時間KYTを行うために不可欠とし、イラストシートを使って①どんな危険がひそんでいるか発見②危険を把握③具体的な対策を立てる④危険ポイントをしぼり、行動目標を立て、指差し呼称で確認―を実践。これを繰り返し訓練することにより、一人ひとりの危険感受性、集中力、問題解決能力、実践への意欲を高める訓練手法であり、参加者は真剣に取り組んでいた。



真剣に取り組んだ研修会
＝鹿児島市のKKR敬天閣で

鹿児島高等技術専門校ソフト会

畳科が見事優勝

鹿児島市職業訓練協会（森山清隆会長）、鹿児島高等技術専門校（鮫島純男校長）は14日、日置郡郡山町の総合運動公園で16年度校内ソフトボール大会を開き、各科の指導員や訓練生らで構成した混成6チームが熱戦を繰り広げた結果、畳科が優勝、準優勝には表具科が輝いた。

開会式では、昨年度優勝した建築塗装科と準優勝の建築・建設科からトロフィーが返還された後、森山会長が「アテネオリンピックで日本選手団の活躍は目覚ましい活躍で金メダルをたくさん獲得しましたが、今日はソフトボールで各科が金メダル目指して頑張ってほしい」と挨拶。続いて、来賓の富迫輝男県職業能力開発協会専務理事が「かねがね持ち慣れた道具をバットやグローブに持ち変え、楽しい一日を過ごし元気一杯にプレーするとともに各チームとの親睦を図っていただきたい」と祝辞を寄せた。

このあと、建築塗装科の徳田充秀さんが力強く選手宣誓を行い、競技上の注意、ルール説明後、森山会長が始球式を実施し、2コートに分かれて試合を開始した。

当日は、天候にも恵まれ秋晴れの中、選手らも好プレーや珍プレーを続出、スポーツを通じてより一層の親睦を深めた。また、和気あいあいとした雰囲気の中、各コートで熱戦を繰り広げた結果、決勝には各リーグ戦を勝ち抜いた畳科と表具科が勝ち上がった。試合は接戦の末、6対3で畳科が勝ち、優勝した。

熱戦を繰り広げた大会
＝郡山町の総合運動公園で

清掃作業に汗を流す会員ら
＝鹿児島市の現地で

県造園建設業協会奉仕作業

観光振興へ樹木剪定

鹿児島を訪れる観光客に喜んでもらえれば―と、県造園建設業協会（丸山重之会長）による清掃奉仕作業が14日、鹿児島市城山町の西郷隆盛銅像周辺をはじめ市内3カ所で一斉に行われた。

今回で3回目となる同作業は、造園技術の向上や都市環境の整備などを目的に毎年実施しているもので、約50の事業所から53人の協会員がボランティアで参加した。会員らは、高所作業車などを使い樹木の剪定や銅像周辺の清掃作業に汗を流した。

作業を前に丸山会長が「鹿児島の偉人・西郷隆盛の命日（1877年9月24日）も近いことから訪れる観光客に鹿児島の魅力をPRしたい。造園のプロとして、日頃の技術を発揮してほしい」と作業にあたる会員らを激励した。

作業を指揮した有村勝則副会長は「新幹線も開通し、本県を訪れる観光客も増加している。歴史に彩られた観光スポットとして銅像周辺の整備は欠かせない。都市緑化の推進はもとより、法人としての社会的責務を自覚し造園や街路樹の維持、管理に努めたい」と意気込みを語った。

市公園緑化課の引地瑞穂主査は「今回も西郷菊生の家（吉野町花倉）と県の合同庁舎（小川町）の3カ所で奉仕作業にあたってもらったが、毎回助かっています。秋の観光シーズンを前に市民やも観光客にも喜んでもらえると思います」と感謝した。